

大崎市地域福祉推進のための調査報告書

結果から得られた実践上の課題

令和元年に実施した大崎市地域福祉推進のための調査結果に基づいて、分析結果から得られた地域福祉実践上の諸課題を列挙する。

対象とした調査は、以下のとおりである。

- 1、民生委員調査
 - (1) 民生委員調査結果
 - (2) 前期計画の評価見直し結果
- 2、区長アンケート調査
- 3、子育てに関する調査
- 4、高校生調査
- 5、地域福祉推進に関するインタビュー調査

調査の概要

1、調査目的

この調査は、大崎市社会福祉協議会が策定する地域福祉活動計画に資するため、現在の地域福祉課題と、今後の地域福祉推進の方向性を明らかにすることを目的とする。

2、調査実施主体

この調査は、社会福祉法人大崎市社会福祉協議会が実施する。集計分析については、東北福祉大学都築研究室に委託する。

3、調査対象

実施する調査の区分と対象者は、以下のとおりとする。

- ① 民生委員調査・・・・・・・・・・市内の民生委員児童委員全員
- ② 区長アンケート調査・・・・・・・・・・市内の区長全員
- ③ 子育てに関する調査・・・・・・・・・・市内の保育所を利用している子どもの保護者
全員
- ④ 高校生に関する調査・・・・・・・・・・市内に設置されている高等学校の生徒1校当
たり概ね40人または1クラス程度

- ⑤ 地域福祉推進に関するインタビュー調査・・・市内の社協支所単位に、地域活動（民生委員、区長）、福祉施設（理事長、施設長、園長他）子育て（子育て団体、子育てボランティア団体等）

4、調査方法

- ①民生委員調査・・・・・・・・・・質問紙による配票留め置き法
- ②区長アンケート調査・・・・・・・・質問紙による配票留め置き法
- ③子育てに関する調査・・・・・・・・質問紙による配票留め置き法
- ④ 高校生に関する調査・・・・・・・・集合調査法
- ⑤地域福祉推進に関するインタビュー調査・・・個別面接による半構造化面接法

5、調査年月

- ①民生委員調査・・・・・・・・・・2019年5月～7月
- ②区長アンケート調査・・・・・・・・2019年5月～7月
- ③子育てに関する調査・・・・・・・・2019年5月～7月
- ④高校生に関する調査・・・・・・・・2019年5月～7月
- ⑤地域福祉推進に関するインタビュー調査・・・8月20日～22日

6、調査項目

- ①民生委員調査（基本属性、福祉対象世帯、情報交換と福祉部、地域活動、災害時対応、民生委員活動、前期計画の評価と見直し）
- ②区長アンケート調査（基本属性、世帯数、地域活動、活動の充実状況、今後の課題）
- ③子育てに関する調査（基本属性、子どもの交流、保護者の交流、社会資源、サービス利用状況、子育ての負担感と満足度、相談相手等）
- ④高校生に関する調査（基本属性、祖父母との同居の有無、高齢者との交流状況、災害時気になる高齢者の有無等）
- ⑤ 地域福祉推進に関するインタビュー調査・・・地域福祉推進調査（居住年数、地域の魅力、活動状況、今後の活動のあり方、今後の地域像）、福祉施設調査（設置年数と地域の魅力、施設の活動計画と活動状況と評価、今後の計画意向、今後の地域における施設像）、子育てに関する調査（居住年数と地域の魅力、現在の子育て活動の評価、今後の子育て活動の取り組み意向、今後子育てのために地域に求めるもの）

7、調査結果

それぞれの調査した結果は、別添調査結果概要のとおりである。

以下、調査結果による、主要な課題を整理する。

1、民生委員調査結果

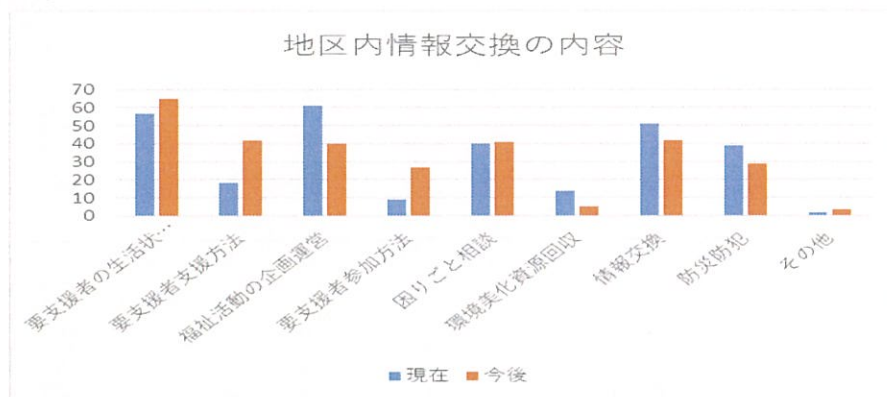
民生委員調査結果からは、以下の課題が明らかになっている。

(1) 民生委員調査結果

1) 地区内情報交換

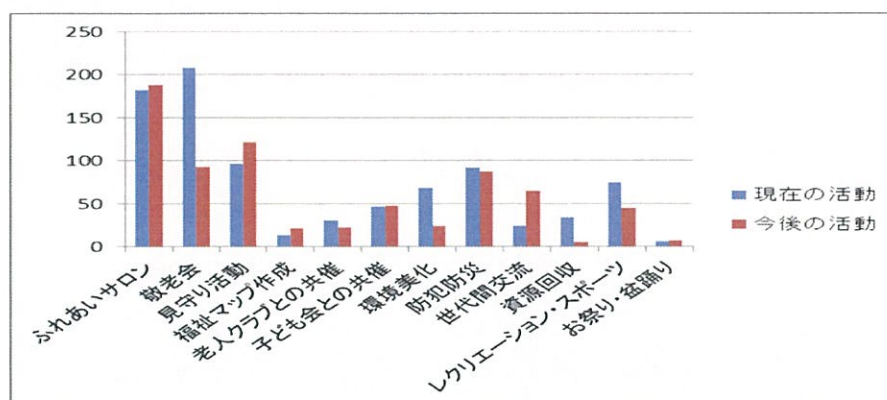
調査結果では、地区内での民生委員をはじめとする地域の役職員同士による情報交換について、実施している地区が109地区の41%、実施していない地区が157地区の59%となっていた。情報交換実施地区を増加することが求められている。

2) 情報交換の話題（現在：N=288、今後：N=287）



地区内で増加しているひとり暮らしの高齢者等、何らかの配慮を必要とする方々に対する対応のあり方に力を入れていきたいという意見が多かった。今後の地域のあり方にかかわる問題であるだけに、主要な課題に挙げられると思われる。

3) 地域福祉活動（現在：N=981、今後：N=768）



地域福祉活動の推進に関する方向性として、現在の活動に比較して今後の活動の件数が多い活動と言える。加えて一定数の件数も必要である点から見ると、今後の活動が50件以上の活動であって、今後の活動の件数が多い活動は、「ふれあいサロン」「見守り活動」「世代間交流」の三活動である。福祉活動の重要性としては「防犯防災活動」を含める必要があると考えられる。

4) 地域福祉活動への要支援者の参加

クロス表

		問15要支援者の参加状況						
		頻繁	たまに	ほとんど参加 していない	参加していな い	よくわからな い	合計	
整理番号2	古川	度数	14	47	47	14	12	134
		整理番号2の%	10.4%	35.1%	35.1%	10.4%	9.0%	100.0%
松山	度数	4	2	2	2	0	10	
		整理番号2の%	40.0%	20.0%	20.0%	20.0%	0.0%	100.0%
三本木	度数	1	4	3	4	0	12	
		整理番号2の%	8.3%	33.3%	25.0%	33.3%	0.0%	100.0%
鹿島台	度数	1	13	5	3	1	23	
		整理番号2の%	4.3%	56.5%	21.7%	13.0%	4.3%	100.0%
岩出山	度数	0	11	13	2	2	28	
		整理番号2の%	0.0%	39.3%	46.4%	7.1%	7.1%	100.0%
鳴子	度数	2	11	7	3	1	24	
		整理番号2の%	8.3%	45.8%	29.2%	12.5%	4.2%	100.0%
田尻	度数	3	6	10	8	1	28	
		整理番号2の%	10.7%	21.4%	35.7%	28.6%	3.6%	100.0%
合計	度数	25	94	87	36	17	259	
		整理番号2の%	9.7%	36.3%	33.6%	13.9%	6.6%	100.0%

地域福祉推進上、福祉サービスを必要とする住民の参加状況は、重要な評価指標とされている。全体として「頻繁」「たまに」を合わせると46%であった。参加状況は、過半数に満たない状況にある。

5) 活動拠点

整理番号2と問16支援拠点必要性の有無のクロス表

		問16支援拠点必要性の有無						
		必要ない	あまり必要で ない	どちらとも言 えない	まあまあ必要	必要	合計	
整理番号2	古川	度数	2	2	9	13	113	139
		整理番号2の%	1.4%	1.4%	6.5%	9.4%	81.3%	100.0%
松山	度数	0	0	0	1	9	10	
		整理番号2の%	0.0%	0.0%	0.0%	10.0%	90.0%	100.0%
三本木	度数	0	0	0	1	11	12	
		整理番号2の%	0.0%	0.0%	0.0%	8.3%	91.7%	100.0%
鹿島台	度数	0	0	2	6	15	23	
		整理番号2の%	0.0%	0.0%	8.7%	26.1%	65.2%	100.0%
岩出山	度数	3	1	3	3	19	29	
		整理番号2の%	10.3%	3.4%	10.3%	10.3%	65.5%	100.0%
鳴子	度数	0	0	2	2	21	25	
		整理番号2の%	0.0%	0.0%	8.0%	8.0%	84.0%	100.0%
田尻	度数	0	1	2	2	23	28	
		整理番号2の%	0.0%	3.6%	7.1%	7.1%	82.1%	100.0%
合計	度数	5	4	18	28	211	266	
		整理番号2の%	1.9%	1.5%	6.8%	10.5%	79.3%	100.0%

活動拠点は、地域福祉活動を推進していく上で重要な要素と言える。「必要」「まあ必要」を合わせて89.8%という回答であった。

活動拠点の確保は、重要な課題となっていると思われる。

(2) 前期計画の評価見直し

計画事業名	評価度	見直し点
①新たな地域づくり	3.50	4.40
②ボランティアの養成	3.30	4.38
③ネットワークの構築	2.81	4.47
④世代間交流の推進	3.00	4.35
⑤関係団体の交流	3.02	4.29
⑥ひとづくり	2.72	4.52
⑦拠点づくり	2.92	4.42

前期計画に基づく諸活動結果の評価としては「評価度」の3ポイント以上の場合には評価が高いとみることができ、3ポイント未満の場合を評価が低いとみることとなる。

結果として「①新たな地域づくり」「②ボランティアの養成」「④世代間交流の推進」「⑤関係団体の交流」の4事業が、評価された。一方で「③ネットワークの構築」「⑥ひとづくり」「⑦拠点づくり」の3事業については、評価が低かった。

この結果に基づいて、事業の見直しの方向性については、全体として4ポイント以上となっており、全ての事業が「5 一層の充実が必要」と「4 現状維持」の中間となっていて、基本的には「5 一層の充実が必要」の方向で取り組みが求められる結果となった。

これまでの二期にわたる社会福祉協議会の地域福祉活動計画に基づく地域福祉の推進に関して、一定の評価が得られたものと思われる。

2、区長アンケート結果

区長調査によって、以下の課題が明らかになっている。

1) 町内会未加入者の増加

		ある	なし	その他	合計
古川	度数	74	67	2	143
	%	51.7	46.9	1.4	100.0
松山	度数	5	16	0	21
	%	23.8	76.2	0.0	100.0
三本木	度数	5	14	1	20
	%	25.0	70.0	5.0	100.0
鹿島台	度数	10	17	0	27
	%	37.0	63.0	0.0	100.0
岩出山	度数	25	10	0	35
	%	71.4	28.6	0.0	100.0
鳴子温泉	度数	16	12	0	28
	%	57.1	42.9	0.0	100.0
田尻	度数	6	29	0	35
	%	17.1	82.9	0.0	100.0
合計	度数	141	165	3	309
	%	45.6	53.4	1.0	100.0

地域福井市活動の単位は、町内会を単位とする活動が少なくない。未加入者の有無で見ると、141 地区 45.6%において未加入者が「いる」という回答であった。

2) 「福祉部」の設置の有無

		設置している	設置していない	設置する予定がある	合計
古川	度数	54	86	1	141
	%	38.3	61.0	0.7	100.0
松山	度数	5	16	0	21
	%	23.8	76.2	0.0	100.0
三本木	度数	5	15	1	21
	%	23.8	71.4	4.8	100.0
鹿島台	度数	3	23	1	27
	%	11.1	85.2	3.7	100.0
岩出山	度数	13	21	1	35
	%	37.1	60.0	2.9	100.0
鳴子温泉	度数	5	22	0	27
	%	18.5	81.5	0.0	100.0
田尻	度数	34	1	0	35
	%	97.1	2.9	0.0	100.0
合計	度数	119	184	4	307
	%	38.8	59.9	1.3	100.0

地区組織における、福祉活動部門の設置状況を確認してみると、全体として設置されている地区は、40%弱となっている。地区別にみると田尻地区が 97.1%と高かった。次いで古川、岩出山がともに 30%台となっていて、未設置の地区が多い。

3、子育てに関するアンケート

1) 居住地と子育て上の悩み

問5居住地と問18子育てへの悩みのクロス表

		問18子育てへの悩み			
			はい	いいえ	合計
問5居住地	古川	度数	150	175	325
		問5居住地の%	46.2%	53.8%	100.0%
松山	松山	度数	15	18	33
		問5居住地の%	45.5%	54.5%	100.0%
三本木	三本木	度数	24	32	56
		問5居住地の%	42.9%	57.1%	100.0%
鹿島台	鹿島台	度数	46	60	106
		問5居住地の%	43.4%	56.6%	100.0%
岩出山	岩出山	度数	22	26	48
		問5居住地の%	45.8%	54.2%	100.0%
鳴子	鳴子	度数	14	10	24
		問5居住地の%	58.3%	41.7%	100.0%
田尻	田尻	度数	48	42	90
		問5居住地の%	53.3%	46.7%	100.0%
その他	その他	度数	2	0	2
		問5居住地の%	100.0%	0.0%	100.0%
合計	合計	度数	321	363	684
		問5居住地の%	46.9%	53.1%	100.0%

子育てに何らかの悩みを有している保護者は、46.9%であった。特に田尻や鳴子などの地域において悩みを抱えている人が多い。

2) 子が他人の家に出かけることと子育ての楽しみ (p<0.05)

クロス表

		問14-1子育てが楽しい						
		まったくそう 思わない	あまりそう思 わない	どちらとも言 えない	少しそう思 う	とてもそう思 う	合計	
問9-1子が家に行くこと	いいと思わない	度数	0	0	0	1	5	6
		問9-1子が家に行くこと の%	0.0%	0.0%	0.0%	16.7%	83.3%	100.0%
	あまりいいと思わない	度数	0	2	3	8	8	21
		問9-1子が家に行くこと の%	0.0%	9.5%	14.3%	38.1%	38.1%	100.0%
	どちらとも言えない	度数	0	5	30	34	39	108
		問9-1子が家に行くこと の%	0.0%	4.6%	27.8%	31.5%	36.1%	100.0%
	まあいいと思う	度数	1	5	39	109	102	256
		問9-1子が家に行くこと の%	0.4%	2.0%	15.2%	42.6%	39.8%	100.0%
	いいと思う	度数	1	4	17	56	81	159
		問9-1子が家に行くこと の%	0.6%	2.5%	10.7%	35.2%	50.9%	100.0%
合計	合計	度数	2	16	89	208	235	550
		問9-1子が家に行くこと の%	0.4%	2.9%	16.2%	37.8%	42.7%	100.0%

子どもが他人の家遊び等出かける家庭の保護者が子育てを楽しんでいるかどうかを分析してみると、子どもが出かけることと子育てが楽しいと感じている点に、関連性が見受けられた。

3) 家庭のまとまり感 (p<0.05)

クロス表

		問14-4家族のまとまり					合計
		まったくそう 思わない	あまりそう思 わない	どちらとも言 えない	少しそう思 う	とてもそう思 う	
問9-1子が家に行くこと	いいと思わない	度数	0	0	0	0	6
		問9-1子が家に行くこと の%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	あまりいいと思わない	度数	0	0	2	7	12
		問9-1子が家に行くこと の%	0.0%	0.0%	9.5%	33.3%	57.1%
	どちらとも言えない	度数	1	4	9	33	62
		問9-1子が家に行くこと の%	0.9%	3.7%	8.3%	30.3%	56.9%
	まあいいと思う	度数	0	3	25	47	181
		問9-1子が家に行くこと の%	0.0%	1.2%	9.8%	18.4%	70.7%
	いいと思う	度数	0	4	7	22	126
		問9-1子が家に行くこと の%	0.0%	2.5%	4.4%	13.8%	79.2%
合計		度数	1	11	43	109	387
		問9-1子が家に行くこと の%	0.2%	2.0%	7.8%	19.8%	70.2%

子どもが他人の家に出かけることを肯定的に捉えている家庭は、家族のまとまり感を有している点が確認できる。

4) 仲間が増えた (p<0.01)

クロス表

		問14-5仲間が増えた					合計
		まったくそう 思わない	あまりそう思 わない	どちらとも言 えない	少しそう思 う	とてもそう思 う	
問9-1子が家に行くこと	いいと思わない	度数	0	0	1	0	5
		問9-1子が家に行くこと の%	0.0%	0.0%	16.7%	0.0%	83.3%
	あまりいいと思わない	度数	1	1	3	5	11
		問9-1子が家に行くこと の%	4.8%	4.8%	14.3%	23.8%	52.4%
	どちらとも言えない	度数	2	6	25	39	35
		問9-1子が家に行くこと の%	1.9%	5.6%	23.4%	36.4%	32.7%
	まあいいと思う	度数	3	7	40	75	131
		問9-1子が家に行くこと の%	1.2%	2.7%	15.6%	29.3%	51.2%
	いいと思う	度数	0	7	15	29	108
		問9-1子が家に行くこと の%	0.0%	4.4%	9.4%	18.2%	67.9%
合計		度数	6	21	84	148	290
		問9-1子が家に行くこと の%	1.1%	3.8%	15.3%	27.0%	52.8%

子どもが他人の家に出かけることを肯定的に捉えている家庭は、仲間が増えたという実感を有していることが確認できている。

4、高校生アンケート調査

1) 世代間交流の可能性

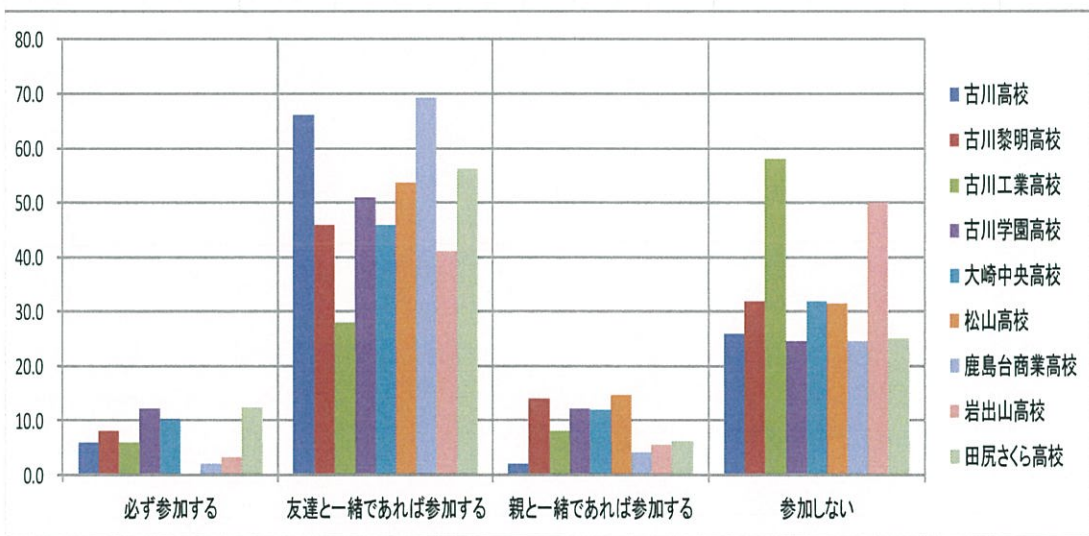
問9 地域のお年寄りとの触れ合いについてお聞きます。お年寄りと触れ合う機会ができたとき、あなたは参加しますか。

(実数)

	必ず参加する	友達と一緒に あれば参加する	親と一緒にあ れば参加する	参加しない
古川高校	3	33	1	13
古川黎明高校	4	23	7	16
古川工業高校	3	14	4	29
古川学園高校	6	25	6	12
大崎中央高校	5	23	6	16
松山高校	0	29	8	17
鹿島台商業高校	1	34	2	12
岩出山高校	3	37	5	45
田尻さくら高校	4	18	2	8

(割合)

	必ず参加する	友達と一緒に あれば参加する	親と一緒にあ れば参加する	参加しない
古川高校	6.0	66.0	2.0	26.0
古川黎明高校	8.0	46.0	14.0	32.0
古川工業高校	6.0	28.0	8.0	58.0
古川学園高校	12.2	51.0	12.2	24.5
大崎中央高校	10.0	46.0	12.0	32.0
松山高校	0.0	53.7	14.8	31.5
鹿島台商業高校	2.0	69.4	4.1	24.5
岩出山高校	3.3	41.1	5.6	50.0
田尻さくら高校	12.5	56.3	6.3	25.0



高校生が高齢者との世代間交流として参加する場合、「友人と一緒になら参加する」という回答と「参加しない」に回答が分かれている。

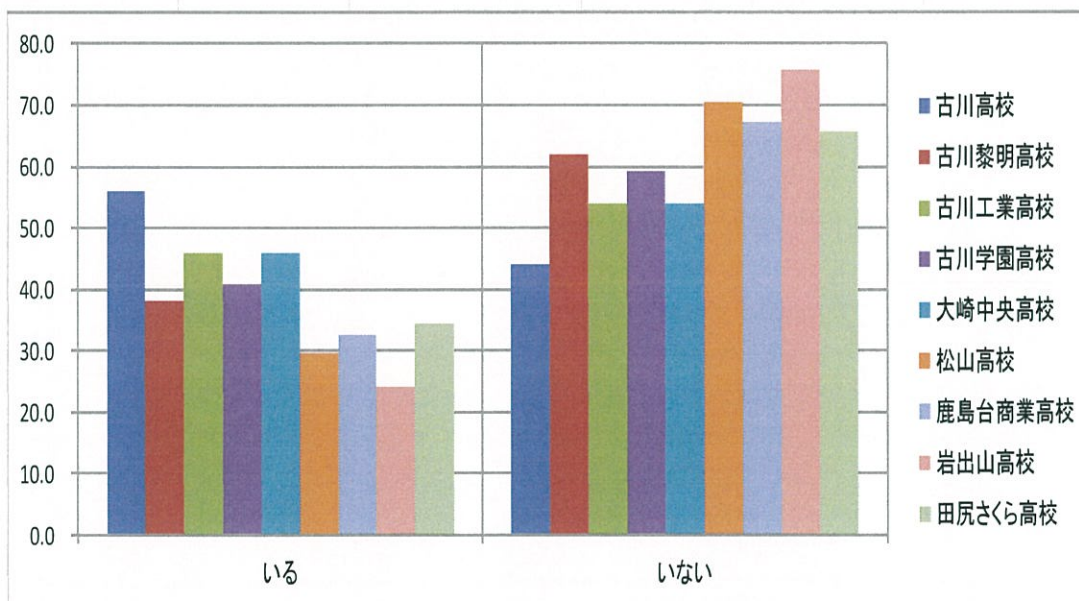
この調査結果から、高校生との世代間交流の実施に当たっては、単にイベントや事業を開催するだけでなく、参加しやすくする工夫のあり方として、グループによる取り組みの機会を設定することが課題となっている。

2) 災害時等における気になる高齢者

問10 火事や地震など災害や緊急時のときについてお聞きします。

① 一緒に暮らしている家族以外で、災害や緊急時に、無事かどうか気になるお年寄りはいますか。

(実数)			(割合)		
	いる	いない		いる	いない
古川高校	28	22	古川高校	56.0	44.0
古川黎明高校	19	31	古川黎明高校	38.0	62.0
古川工業高校	23	27	古川工業高校	46.0	54.0
古川学園高校	20	29	古川学園高校	40.8	59.2
大崎中央高校	23	27	大崎中央高校	46.0	54.0
松山高校	16	38	松山高校	29.6	70.4
鹿島台商業高校	16	33	鹿島台商業高校	32.7	67.3
岩出山高校	22	69	岩出山高校	24.2	75.8
田尻さくら高校	11	21	田尻さくら高校	34.4	65.6



火事や地震など、災害をはじめとする緊急時において、高校生にとって気になる高齢者がいるかどうかについて、「いる」と「いない」の回答では、高等学校による違いがみられた。50%を超えたのは1校であったが、全体として「いる」という回答は、古川市内の高等学校に集中している。

高校生の地域福祉への関心を高める取り組みのほか、地域住民への関心のある高校生が古川市内の高校に集中している状況の改善が課題となっている。

5、地域福祉推進に関するインタビュー調査

1) 地域福祉推進調査

地域福祉推進に関し、インタビュー調査を実施した。その結果合計 61 人（鳴子 5 人、岩出山 5 人、三本木 4 人、松山 4 人、鹿島台 2 人、田尻 5 人、古川 36 人）から回答を得た。

①居住地域について

自然が豊かで、住んでいる人々が温かい。地域内の繋がりがあり、行事も多くかつ住みやすく食べ物もおいしい。利便性が高いのも魅力であるという回答がほとんどで、地元への愛着が強い回答結果であった。

②現在の地域福祉活動

中心部から離れると地域活動に積極的な人材が少なく、活動の継続性を危ぶむ声が聞かれている。特に玉造地区の住民の意見は人材難、防犯、移動手段の面での課題を指摘している。大崎市全域で見受けられた課題として、人材難（世代交代含む）、移動手段、ごみ出しなどの近隣の手助け、である。加えて活動のマンネリ化が課題となっている。社会福祉の対象となっている人は、玉造や志田地区では参加していないという回答が多かった。田尻や古川地区では、一部参加者がいる回答が確認できた。

③今後の地域活動

高齢者の独り暮らしの方の見守りや入院・施設入所した場合の空き家の管理が防犯上も課題となっている。また今後は地域の担い手や移動手段、孤立防止が大きな課題となっている。また社会福祉サービスの利用者に関しては、ほとんどの地区で参加できていないため、住民間での話し合いが必要との課題が出ている。田尻地区では組織的に実施している地域もある。今後の活動のためにも、活動の担い手や予算の確保、多くの方々が参加しやすい条件整備が課題とされた。

④今後の地域像

今後は、誰もが安心安全に暮らせる、特区町のある地域づくりを目指したいと考えていることが確認された。そのためにも多くの地域住民が地域づくりのために積極的に声を上げ、共に諸活動に取り組みたいと考えていた。そのためにも、役職員自ら積極的に地域の方々に声掛けをしていきたいと考えていることが確認された。

2) 施設団体調査

市内の施設や福祉関係団体の方々を対象に、地域福祉推進のためのインタビューを実施した。その結果合計延べ 24 件（ボランティア 7 人、高齢者施設 5 人、障害施設・団体 7 人、児童 2 人、地域団体 3 人）から協力を得ることができた。

①現在の活動状況

活動が活発で、今後の活動に見通しのある組織や団体と、逆に担い手が高齢化し予算の見通し

がなくなってきたという組織や団体とに分かれてきており、組織や団体間で格差を感じている人々が確認された。

②今後の活動や計画

全体として人材不足、組織の高齢化、資金不足という課題に対し、若者との交流や住民のニーズを確認した活動の展開、社会福祉対象者との地域での共生の在り方などが課題とされた。

③今後の地域での活動の方向性

今後より一層活動の活発化のために、地域との交流の場の確保や研修の機会の確保および地域活動への意見の表出の場の確保などが課題として挙げられた。

3) 子育てに関する調査

市内の子育て支援活動関係団体の方々を対象に、地域福祉推進のためのインタビューを実施した。その結果合計 11 件（鳴子 2 人、三本木 2 人、鹿島台 2 人、古川 3 人、田尻 2 人）から協力を得ることができた。

①地域の魅力

自然が豊かで利便性も良く、子どもにも良い環境だと思う。引っ越して大崎市に来たが、地元の良さを地元の人たちが知らないように感じるという意見を確認できた。

②現在の活動状況

例年と同じパターンで活動を展開しているという回答が多いものの、その時々々の要望を入れながら柔軟に実施している点を確認できた。ただし少子化のために、活動の場となっている幼稚園や保育所の都合によって、活動を終えたクラブもあった。予算の確保はどこでも大きな課題となっており、市からは事業のメニューごとに補助金を出すとされているものの、申請手続き等で断念している状況を確認できた。ボランティアの参加は、部分的に確認された。チラシなどによって参加している人々が多く、活動自体はアットホームな感じで悩みを話し合うことができると好評である。

③今後の活動の方向性

基本的には現状維持が多くを占めた。ニーズがあることを活動者は認識しており、活動自体拡大していきたいものの、担い手や資金面で断念している状況で、活動者の「活動したい」というニーズは高い。障害のある子とない子との交流の場が欲しいという意見が確認された。古川地区は子育て支援の資源があるため内容面の意見が多く、古川以外の地域では、資源そのものを求める意見が多数を占めた。

④今後の子育てのための地域像

保護者同士の交流の場が必要で、参加できる機会が沢山あると良いという回答がほとんどであった。世代間交流も良いという意見が見られた。そのためにも地域との関係性の強化と、気軽に外に出ていくことができる親子にとって安全な公園を求める意見が多くみられた。また諸活動に

において、行政からの支援を求める意見も少なからず確認されており、関係者からの公的機関の支援を求める声が小さくはなかった。